

平成 21 年度卒業予定者アンケート

理学部では、平成 22 年 1 月から 2 月末にわたり平成 21 年度理学部卒業予定者を対象に大学生活全般に関するアンケートを実施した。

「Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック」は平成 22 年度理学部コース長が担当した。また、「Ⅱ. 集計結果 (pp. 18-37)」は理学部大学点検評価委員会が受け持った。

Ⅰ. 分析と今後の教育へのフィードバック

数理科学コース

数学コース卒業予定者 44 名のうち 43 名から回答を得た。かなり高い回収率であった。

20 年度のアンケート結果と比較し、フィードバックを考えたい。割合は (21 年度、20 年度) とする。

【全般的な質問】

「高知大での勉学や生活で満足できたもの」の一番は昨年同様、友人との出会い (77%、71%) であり、かなり高い。次に高いものは研究室での卒研ゼミ (53%、66%) と先生との出会い (53%、51%) であった。卒論ゼミは 4 年進級時に全員が希望の教員の研究室に配属されているが、満足している学生は (53%、66%) ほぼ半数であり、昨年度よりも減っている。一方で、研究室での卒研ゼミが満足できなかったという回答は 0% であった。授業については (37%、51%) とかなり下がっている。一昨年は 27% で昨年大幅に上げたのに、再び下がってしまった。授業が満足できなかった学生は (43%、43%) で変化は無かった。自由記述でも授業についての厳しい意見が多かった。満足できないものの 1 番は課外活動 (47%、21%) であった。課外活動を満足できるものと回答した学生も (14%、51%) であり、かなり下がっている。共通教育に関しては満足できた、あるいは満足できる授業が多かったを合わせると (74%、83%) であった。しかし、満足できなかった学生の自由記述には厳しいものが多い。

教育研究施設 (学習環境) についての満足度は、満足、ほぼ満足を合わせると 81% であり、学習環境は十分に整っていると考えて良いのではないかな。

高知大学の就職支援活動については、満足、ほぼ満足 (56%、51%) であり昨年とあまり変わらなかった。企業への就職を希望する学生が少ない数学コースではどのような就職支援をすべきか考える必要があるだろう。

ボランティア活動への参加は (21%、20%) とほぼ変わらないが、満足、ほぼ満足と答えた学生 (92%、83%) は増えた。

【コース分属】

全員が数学を第一希望コースとしていた。また、転学部・転学科・転コースの希望者はいなかった。

【シラバス】

肯定的な回答が 9 割近く、前回と変わらない。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は 40 以上 (21%、17%)、30-40 (23%、20%)、20-30 (26%、40%)、10-20 (23%、17%)、10 以下 (7%、6%) となり、満足できた授業の数の多いもの、少ないものがともに増加して、中間的な学生がかなり減少している。満足した理由については親切で丁寧な授業であった (71%、64%)、授業が一方向的でなかった (27%、15%) が増加している。しかし、

専門分野の実力がついた（49%、64%）と感じている学生が大きく減少した。満足できなかった授業の数は、40以上（5%、3%）、30－40（5%、3%）、20－30（16%、23%）、10－20（33%、14%）、10以下（33%、14%）となり、20－30と10以下が減少し、10－20が大幅に増加した。満足しなかった理由の一番は昨年同様不親切でわかり難い授業（54%、53%）で、その割合は高い。また、実力がつかなかった（41%、53%）と考える学生は減少したとはいえ、かなりの数がある。さらに、教員の熱意が感じられなかった（24%、0%）学生が非常に増えた。

【標準履修モデル】

肯定的回答全体は昨年とほぼ変わらないが、概ね合致していると回答している学生の割合が大きく増えている。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対し、余りそう思わない（49%、37%）が増えている。さらに、「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対し、全くそのとおりである（26%、3%）と全く思わない（2%、23%）となっており、昨年と逆転している。「サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実験実習等の授業時間を軽減してほしい」という要望に対する肯定的回答（21%、3%）が大幅に増えている。「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対しては肯定的意見（72%、77%）が微減しているが、やはりかなりの学生の要望である。社会に出て役に立つことの回答はいくつかあるが、「自分で考えること」は複数の学生が答えている。

【成績評価】

成績評価については否定的意見（17%、15%）が若干増え、成績評価が適切に行われていないと回答（21%、15%）した学生も増えている。

【授業改革】

授業科目数と内容の適切さについては否定的回答は無かった。

【アドバイザー教員制度】

昨年同様ほとんどの学生がアドバイザー教員の指導・支援（97%、97%）について肯定的に回答している。また、適切でなかったとの回答は0であった。

【自由意見】

自由意見は一つも書かれていなかった。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

アンケートの 98% と高いものであったが、自由意見は一つも無かった。しかし、各アンケートのその他で学生の意見を聞くことができた。もう少し学生の自由記述が増えるようにアンケートを工夫すべきであろう。

卒論ゼミは4年進級時に全員が希望の教員の研究室に配属されているが、満足している学生は、ほぼ半数であり、昨年度よりも減っている。学生が卒論ゼミに何を求めているか、もう一度考えてみる必要がある。満足できた授業の数が多いもの、少ないものの人数がともに増加している。学生の2極化が進んでいるようだ。満足できたものの理由は「親切で丁寧な授業」、「授業がっぽうてきでなかった」である。一方で「実力がつかなかった」と回答している学生が多い。学生に合わせ、丁寧に授業を行い、学生が結果に満足できるように授業を行う必要があるのだろう。「教員に熱意が感じられなかった」と回答した学生が昨年は0であったのに、今年は非常に増えたことには戸惑いを覚える。教員各自が授業に関して振り返ってみる必要があるだろう。

教育研究施設（学習環境）については十分に整っていると考えられる。自由記述で求められてる個別の希望に関しては吟味し対応して行けば良いと思える。

専門科目への要望では「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」というものがかなり

ある。その内容としては自由記述の中に「自分で考えること」というものが複数あった。数学を学ぶことが「自分で考えること」に繋がるように授業を行う必要がある。

昨年度に比べ、授業に関して評価が下がっているようだ。自由記述でも厳しい意見が見受けられる。教員の側の問題なのか、この学年の学生の気質なのか、現在の講義を行いながら各教員は考えてみなければならない。

情報科学コース

【全般的な質問】

情報科学コースでは前年のデータでないの、前年度との比較は出来ません。

＜満足できたもの＞の第一が D. 友人との出会い(83%)であることはよいことである。大学時代に得た友達は一生続くものである。C. 先生との出会い(38%)が他のコースと比べても低いのは問題である。理由は特に思い当たらない。

＜満足できなかったもの＞の第一は E. 課外活動(53)であるが、もともと情報コースには課外活動の授業がないので、論評しようがない。個別意見では「出席点をもっと上げて下さい」これはそれぞれの先生の方針によるので、直接希望述べるのがよいだろう。「卒業論文発表会は、1日の方が他人の発表を集中して聞けるので2日間だと、集中力がもたなかった。」今年から1日にしています。「毎週先生が違う授業があったのですが、15人中3人の先生が授業を忘れて来なかったことがある。」これについては率直に反省に必要がある。

＜共通教育の授業は満足できるものでしたか。＞満足できた(12%)満足できる授業が多かった(60%)でまずまずである。

＜教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。＞満足できた(20)ほぼ満足できた(64)でまずまずである。

＜高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。＞満足できたと満足できなかったが6：4であるが、これはほぼ就職率を反映していると思われる。

＜ボランティア活動＞は積極的に進めていないので、参加なし(72%)がほとんどであるが、参加者はほぼ満足しているようなので、積極的に進めるようにしてもよいか。

【コース分属】

＜あなたは希望するコースに分属できましたか。＞で希望と異なるコースに分属した(17%)が他コースに比べて多いが、これは今年からこれは解消したはずである。

【シラバス】

＜シラバスは授業選択に役立ちましたか。＞役立った(40%)役立つこともあった(48%)でまずまず役立っているようである。

＜授業はシラバスの授業計画に沿って実施されていきましたか。＞実施されていたとほぼ実施されていたをあわせると100%である。特に問題はないようである。

【受講科目の感想】

＜満足できた授業の数＞は開設授業数にもよるので、論評しようがない。

＜満足した理由＞の第一が親切で丁寧な授業で、＜満足しなかった理由＞の第一が不親切でわかり難い授業であるが学生の現状がよく分かる。

【標準履修モデル】

に関する質問にはAとBをあわせると90□100%であり、まず問題ないようである。

【専門科目への要望】

＜より高度な授業内容を実施してほしい＞はAとBをあわせると72%あり、また＜最前

線の研究成果や手法を学ぶために、実験実習の時間を増やしてほしい>も A と B をあわせると 68%あり、今後考える必要がある。ただし、学生の方の努力も必要であるが、

<社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい>は A と B をあわせると 84%あり、特に要望が強いようであるが、具体的意見を見ると特に授業で教えるようなことではない。社会に出てから実践の場で勉強したらよい。

【成績評価】

<成績評価の方法>は A と B をあわせると 80%あり、特に問題はない。

【授業改革】

<授業科目数と内容は適切だと思いますか。>は A と B をあわせると 84%あり、特に問題はない。

【アドバイザー教員制度】

<指導・支援は適切でしたか。>は A と B をあわせると 92%あり、特に問題はないが、

【自由意見】

「アドバイザー教員制度は3年からで良いと思う。1、2年の時にコースの違う先生がアドバイザー教員であつたら、何も相談しないのでは？掲示板をしっかりと見て、行動すれば良い。個人情報の管理は学務課か所属学部がすれば良い。」とあるが、全くそのと降りであると私も思う。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

情報科学コースでは特に高度な内容の授業を求める希望が多いので、その方向への工夫が必要である。

また、1、2年次のアドバイザー教員は必要ないかもしれない。

物質基礎科学コース

物質基礎科学コース卒業予定者 19 名中 17 名から回答を得た。各質問事項には、昨年度（平成 20 年度）の結果との比較も含めた。

【全般的な質問】

“大学での勉学や生活において満足できたかどうか”という質問に対して、満足できたものとして、昨年度同様、「友人との出会い」（81%）（昨年度 76%）という回答が最も多かった。次いで「研究室での卒研やゼミ」（69%）であるが、昨年度（52%）と比べて増加しており、研究室での活動を一層充実させていくのが良いと考えられる。それと関連して「授業」（44%）も昨年度（24%）に比べ改善され、他コースに比べても良い方に入っており、授業改善の結果が毎年数字に反映されており効果が見られる。しかしながら、まだ半数以下なのでこれからも一層の努力を必要とするだろう。同様に、「先生との出会い」（63%）（昨年 48%）と「課外活動」（63%）（昨年度 29%）も上がっており、全般的に満足度が向上していることは喜ばしい。特に3、4年生時で卒論など少人数での研究や共同作業を通して「自分から積極的に学ぶ習慣が身に付いた（その他自由記述）」学生もあり、学問の面白さを知るだけでなく、人間関係にも大きな影響を与えていることが見受けられる。

他方、“不満足”として挙げられたものに「授業」（50%）（昨年度 44%）が相変わらずある。満足度も上がっているが、不満足度も少しだが上がっており、授業の理解度の二極化によるものと推定される。この推定は【専門科目への要望】の質問項目の回答の分析からの帰結である。その他については「友人とのトラブル（25%）」（昨年度 0%）が気になる。

“共通教育の授業”については「満足できた」と（24%）（昨年度 14%）、「満足できる授業

が多かった」(47%) (昨年度 41%) とをあわせて 7 割強の学生が概ね満足しており、昨年度 55% から改善されている。「人数制限があり取りたい授業を取れないことがあった」という指摘には耳を傾けるべきかと思う。

“教育環境施設が十分であったか”との質問には、耐震工事が完了したこともあり、昨年度同様(昨年度 68%)、概ね満足している(71%)学生が多い。不満足な点が具体的に示されていないので、満足度を一層高めるには自由記述して貰うのも良いかも知れない。

「コースの就職支援」は好評であったようだが、“大学の就職支援活動”に対しては概ね満足が 38% (昨年度 68%) と、一昨年レベルまで落ち込んだ。“大学の就職支援活動”のあり方について検討が必要かも知れない。

“ボランティア活動”は、他コースとほぼ同様に 7 割の学生が参加していないが、参加した学生はすべて概ね満足している(100%)。

【コース分属】

昨年度から不本意分属がなくなっていたが、今年度は 6%の学生が第 2 志望ではあるが不本意分属はなく、問題は解消されている。また転学部・転学科・転コースの希望者は 100% 希望がかなえられており、この制度が機能している。

【シラバス】

シラバスは授業選択に役立っており(役立った(53%)、役立つこともあった(47%)、計 100%) (昨年度 91%)、授業も概ねシラバスにしたがって行われていた(94%) (昨年度 87%)。

【受講科目の感想】

受講科目に対する満足度は低い。「満足できた科目数」が 30 個以下の割合(77%) (昨年度 73%) はほぼ横ばいである。しかし、授業の満足で「親切で丁寧な授業であった」(88%) (昨年度 55%)、「教員の熱意が感じられた」(59%) (昨年度 45%) と昨年度より改善され、他コースと比べても高く評価されている。個別的には教員の努力が伝わって満足した授業になっていることがはっきりしてきた。一方、「専門分野の実力がついた」(12%) は昨年度(59%) に比べ大きく後退しており、授業の工夫もますます必要であろう。

逆に満足できなかった授業が 30 個以上の割合が 6% (昨年度 10%) と少ないのは上記の結果を裏付けている。不満足の理由には「不親切でわかり難い授業であった」の割合(59%) (昨年度 73%) が一番大きい、「教員の熱意が感じられなかった」は 0% (昨年度 23%) となっていることは、教員の努力を一定程度評価して貰えていることがうかがえる。「教員の熱意」を、学生の「専門分野の実力をつける」ことにつなげることが課題であろう。

【標準履修モデル】

「基礎教育科目と専門コア科目は(概ね)適切に配置されていた」という肯定的な意見は 100 % (昨年度 90%) になっており、「専門コア科目と専門専攻科目の配置の適切さ」に対しても 88 % (昨年度 91 %) は肯定的であり、コースのカリキュラムは受講生にとって満足されているものと思われる。また、コースの教育目標と標準履修モデルが合致しているという意見でも 82% (昨年度 86%) が肯定的な意見を持っており、概ね良好である。

【専門科目への要望】

ほぼ 6 割(59%)の学生(昨年度 63%)が“より高度な授業”を要求している一方で、“もう少し授業のレベルを下げて欲しい”という学生も 5 割弱(47%) (昨年度 41%) おり、授業レベルの按配はやはり難しい課題である。物理分野の特徴として基礎を積み上げていかないと高度な題材を扱うことが出来ないことがあり、学生の意見が二極化するのかもしれない。

“最前線の研究成果を学ぶため実験実習の時間を増やして欲しい”(41%) (昨年度 54%) との要求については、毎年このくらいの数字で、そうは思わない学生の割合と相半ばしてい

る。“サークル活動やアルバイトなどのため授業時間を減らして欲しい”との要求は、9 割 (89%) の学生が否定的な回答をしている (昨年度 86%) ことから、十分な自由時間をコースのカリキュラムは与えていると思われる。“社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい”という要望を、53% (昨年度 68%) とほぼ半数の学生が持っており、「就職活動に使えること」、具体的にはマナーや英語力、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の涵養に応えるような授業内容を含むことも、現状にもまして考えなくてはならないであろう。

【成績評価】

成績評価は「概ね適切」(62%) (昨年度 73%) と考えているようで、上がり下がりはあるが、概ね例年と同程度の水準である。その理由は「成績評価と自分の予想」に大きな隔たりがなかった (82%) (昨年度 82%) との回答からも窺える。

【授業改革】

授業科目数と内容は「概ね適切である」(94%) (昨年度 86%、一昨年度 69%) との回答で毎年改善されてきている。

【アドバイザー教員制度】

「概ね適切であった」との回答が 88% (昨年度 100%) で、若干減少しており、「余り適切でなかった」が 13% と、他コースに比べて多いのが気に掛かる。4 年間総じて上手く機能していると思われるが、適切でなかった具体的なことが意見として出されていないので判断しかねる。

【自由意見】

“理学部の教育や高知大学の教育全般について”の自由意見は記載がなかった。個々の設問に対しては見られたので、これまで各項目で考察したとおりであるが、理学部改組により次の学年から始まる制度について、「卒業研究をしなくても卒業できる制度は、何の意味もなさないと思います」という意見があった。“大学での勉学や生活で満足できたもの”という設問で、「研究室での卒研やゼミ」がどのコースでも上位に上げられている (7 選択枝中 1 位または 2 位) ことから、今後の学生教育を考える意味で重要な意見であると思われる。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

一昨年度あたりからコース分属での不本意分属がほぼ解消されてきていることにもよるが、総合的に学生の満足度は確実に増加してきていた。22 年度は改組後の学生が卒業するので、そもそも不本意分属は無くなるはずだが、旧来の制度でも努力によって改善可能であったことがわかる。どのコースでも似ていると思うが、「授業」に対する満足度が低いのは続いている問題点である。現状は「親切・丁寧な授業と教員の熱意」でカバーしている感があるが、これをいかにして「専門分野の実力」につなげていくかが課題である。高度な内容の授業を要求する学生も半数おり、ただ単に授業内容のレベルを下げることで解決しない。引き続き課題であろう。社会に出てから役立つという観点からは、学生とのやりとりをする中で、礼儀、コミュニケーションをも学べるようなことも必要であろうが、やはり満足度の高い「研究室での卒研やゼミ」での経験が大きいのではないかと考える。「物理科学」がおもしろい、興味をもてる学問であることを知ってもらえるような努力を引き続き行っていくことが必要であろう。

物質変換科学コース

卒業予定者 35 名のうち 35 名から回答を得た。回答率は 100% である。

【全般的な質問】

高知大学での勉学や生活で満足できたものとして「友人との出会い」(89%),「研究室での卒研やゼミ」(71%),「先生との出会い」(54%),が1位~3位を占め,1,2位が昨年とほぼ同じであったが,3位の「先生との出会い」が倍になっている。一方,満足できなかったものとして「授業を上げる学生が昨年の57%から50%へと減少したものの依然として高い数値である。共通教育の授業に対して「満足できた」「満足できる授業が多かった」と思う学生は昨年の41%から62%へと大きく増加し,逆に「満足できる授業が少なかった」と「満足できなかった」と答えた学生は,昨年の60%から38%にも減少した。

教育施設(学習環境)については,「満足できた」および「ほぼ満足できた」が94%を占め,「あまり満足ができなかった」がわずかに6%であった。前年の比べると好結果となった。すべての部屋のエアコン設備が完備したことが1つの要因と自由記述から推測される。また,卒論研究の仮配属時点で工事が終了していたことが好結果に関係していると考えられる。就職支援活動に対しては,「満足できた」と「ほぼ満足できた」と答えた学生が57%であり,昨年の47%から増加した。一昨年の100%と比べると依然として不況の中厳しい就職活動を反映した結果と思われる。ボランティア活動に参加した学生は他のコースと同程度にアップした(26%)。その活動にほぼ満足している(89%)。

【コース分属】

第一希望コースに分属したが94%,第2希望コースに分属したが6%であった。転学部・転学科・転コースの申請がなされていない(0%)ので,おおむね分属はうまくいったといえる。

【シラバス】

授業シラバスが,「授業選択に役立った」,「役に立つこともあった」が合せて92%を占めている。授業がシラバスの授業計画に沿って実施されているかについては,「実施されていた」(6%),「ほぼ実施されていた」(82%)となっており,「余り実施されていなかった」(12%),「実施されていなかった」(0%)と答えた学生を大きく上回っている。しかし,他コースに比べると「実施されていなかった」とする学生の割合がやや高くなっており,昨年と同じような数値になっている。

【受講科目の感想】

在学中に受講した理学部開講科目のうちで,満足できた授業の数は「40以上」(12%),「30-40」(18%),「20-30」(32%),「10-20」(32%),「10以下」(6%)となっている。満足した理由として,「専門分野の実力がついた」(67%),「親切で丁寧な授業であった」(50%),「教員の熱意が感じられた」(44%),「授業が一方的でなかった」(21%)などとなっている。一方,満足しなかった理由として,「実力がつかなかった」(32%),「不親切でわかり難い授業だった」(79%),「教材の工夫が見られなかった」(24%),「教員の熱意が感じられなかった」(21%),「一方的な押し付け授業だった」(53%)などとなっている。満足できる授業へと数値が高くなっているが,「不親切でわかり難い授業だった」(79%)が高い数値であるのでさらに改善が求められる。

【標準履修モデル】

基礎教育科目と専門コア教育科目は,授業内容や難易度において適切に配置されていたかについては,82%が「配置されていた」,または「概ね配置されていた」と回答している。専門コア教育科目と専門選考教育科目についても,「配置されていた」,または「概ね配置されていた」が75%を占めている。昨年とほぼ同じ数値であるが「概ね配置されていた」の割合がわずかに大きくなっている。

【専門科目への要望】

「より高度な授業内容を実施して欲しい」との要望に対する意見として、「全くその通りである」(17%)、「概ねその通りである」(34%)、「あまりそう思わない」(49%)となっている。さらに「最前線の研究成果や手法を学ぶために、実験実習の時間を増やして欲しい」との要望に対しては、「全くその通りである」、「概ねその通りである」を合せて 60%であった。一方で「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げて欲しい」という要望に対する意見として、26%が「概ねその通りである」、「全くその通りである」と回答しており、他コースに比べ低い方に分類される。「社会に出て役に立つことを授業に盛り込んで欲しい」という要望に対する意見として、一昨年は 81%の学生が「全くそのとおりである」「概ねその通りである」と答えていたのに対して、昨年度は 56%の学生が、本年度は 74%と答えており、年度によって変動が大きい。

【成績評価】

成績評価の方法は適切であったと思うかに対しては、「適切であった」と答えた学生 71%に対して 29%の学生は、「適切でない授業もあった」と答えている。昨年とほぼ同じである。

【授業改革】

理学部の各学科が開設している授業科目と内容については、「適切である」(83%)「足りない」(11%)に対し、「多すぎると答えた」学生は 6%であった。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援は適切であったかの問いに対しては、「適切であった」と答えた学生は 89%、「あまり適切ではなかった」11%、「適切ではなかった」0%であった。

【自由意見】

数少ないが「ジェネラルコースの設置の意図が良くわからない。また、研究室配属のときに生じるいわゆる「不本意分属」は学ぶ意欲をそいでしまうと思う。難しいとは思いますが、何とかした方が良くと思う。」という意見があった。研究室配属について、毎年改善に心がけている。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

昨年に比べ全般的に満足度の高い回答の割合が増加し、例年並になったという印象である。昨年、「他コースに比べ授業に対する満足感に乏しい傾向にある」と指摘されたが、本年は他コースに比べ授業に対する満足感と同程度である。

授業数を減らし、より平易な授業を求めるグループが存在すると同時にコース教育に対して満足度が高く、より高度な授業を求めるグループも存在しており、2 極化の傾向は続いているように思われる。昨年も指摘されたように、いずれかのグループを偏重すれば他方の満足感が減少することは目に見えておりその対応は容易ではない。授業についていけなくなりそうな学生にも配慮できるシステム作りが求められるのは避けられない状況にあるが、今後より高度な教育環境や授業を提供することも必要である。学部と大学院が連携した教育を行うのも 1 つの方策かもしれない。

コース名：生体機能物質科学コース

卒業予定者 30 名のうち 30 名から回答を得た。回答率は 100%である。

【全般的な質問】

高知大学における勉学や生活での満足度をみると、「研究室での卒研やゼミ」(70%)が高い。これは「先生との出会い」(70%)の数値と平行であり、研究室配属後の充実した学生生活と適切な学生指導を反映している。授業に関しては「満足できたもの」は 30%となって、他コースと同程度の値となった。また「授業を満足できなかったもの」は 37%

となり、他コースに比較して低い値となっている。共通教育については肯定的評価（満足できた 24%＋満足できる授業が多かった 31%）が否定的評価（満足できる授業が少なかった 38%＋満足できなかった 7%）を上回った。この傾向は理学部全体にみられるものである。教育研究施設（学習環境）については肯定的評価（満足できた 23%＋ほぼ満足できた 53%）と高く、空調設備の普及が成果として数字となって現れている様子である。就職支援活動については肯定的評価（満足できた 15%＋ほぼ満足できた 30%）と否定的評価（あまり満足できなかった 41%＋満足できなかった 15%）と拮抗している。ボランティア活動への参加については、昨年の 11%に比較して、参加したことがある者が 30%と増加した。参加した者の満足度はおおむね高い（満足できた 33%、ほぼ満足できた 44%）

【コース分属】

第一希望コースに分属した者は 97%となった。転学部・転学科・転コースの申請をしたことがあるものは 0%であった。問題はなさそうである。

【シラバス】

シラバスに関しては、シラバスが授業選択に「役立った」（50%）、あるいは、「役立つこともあった」（40%）とする肯定的評価が 90%を占め、否定的評価は少ない。また、授業がシラバスに沿って実施されていたが 30%となり、他コースと比べて最高値を示した。ほぼ実施されていたとする評価する者を含めると 97%となる。今後もシラバスの質の向上に努めたい。

【受講科目の感想】

満足できた授業の数は 40 以上（21%）、30-40（24%）、20-30（28%）、10-20（17%）、10 以下（10%）で、昨年度の 40 以上（9%）、30-40（36%）、20-30（18%）、10-20（36%）、10 以下（0%）と比べて同程度と評価できる。満足した理由としては 62%の者が「専門分野の実力がついた」ことをあげている。また、「親切で丁寧な授業であった」ことを満足の理由にした者は 73%と極めて高い値である。満足のできなかった授業の数は 40 以上（11%）、30-40（7%）、20-30（7%）、10-20（10%）、10 以下（64%）であった。因みに昨年は 40 以上（0%）、30-40（5%）、20-30（14%）、10-20（18%）、10 以下（64%）であった。満足しなかった理由では「実力がつかなかった」（27%）と「不親切でわかり難い」（45%）が上位を占めたが、この傾向は他のコースと同様な傾向である。理解不足の学生に対するティーチング・スキルの向上が求められる。

【標準履修モデル】

基礎教育科目と専門コア教育科目は、授業内容や難易度において「適切に配置されていた」、もしくは、「概ね配置されていた」とする肯定的評価が 90%となり、昨年度（89%）と同程度であった。また、専門コア教育科目と専門専攻教育科目は、授業内容や難易度において「適切に配置されていた」（20%）、もしくは、「おおむね配置されていた」（67%）とする肯定的評価は 87%であった。コース独自の教育目標と標準履修モデルは「合致していた」（20%）、もしくは、「概ね合致していた」（77%）とする肯定的評価は 97%であり、昨年度（91%）より上昇した。

【専門科目への要望】

より高度な授業内容を実施して欲しい、という要望に対して「全くそのとおり」（28%）、もしくは、「概ねそのとおり」（38%）と回答した者は 66%であった。これは昨年の 37%に比べて上昇している。難しい授業が多いので、もう少しレベルを下げて欲しいという要望に対して「全くそのとおり」（10%）、もしくは、「概ねそのとおり」（24%）となり、授業のレベルを上げて良いのかもしれない。最前線の研究成果や手法を学ぶために、実験実

習の時間を増やしてほしい、という要望に対して「全くそのとおり」(44%)、もしくは、「概ねそのとおり」(33%)と回答した者は77%で、昨年度(59%)に比べて上昇した。サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実験実習等の授業時間を軽減してほしい、という要望に対して「全くそのとおり」(10%)、もしくは、「概ねそのとおり」(13%)となり、他コースと同様の傾向であった。社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい、という要望に対して「全くそのとおり」(33%)、もしくは、「概ねそのとおり」(33%)と回答した者は66%で、昨年度(64%)と同様の傾向を示した。また「社会に出て役立つこととはどのようなものと考えているか」との問に対する回答を見ると、プレゼン能力やコミュニケーション能力の向上、社会のルールなどがあげられていた。困難な就職試験や面接を通じて必要性を感じた結果と推察できる。

【成績評価】

成績評価が「適切であった」(31%)、もしくは、「概ね適切であった」(55%)と回答した者は86%で、昨年度の82%と、より高い値となった。成績評価の適切性に関しては、「適切であった」(24%)、もしくは、「概ね適切であった」(69%)と回答した者は93%であり、他コースより高い値となった。

【授業改革】

開講授業科目数と内容について、「適切である」(31%)、「概ね適切である」(52%)、「足りない」(14%)、「多すぎる」(3%)であった。昨年度の「適切である」(32%)、「概ね適切である」(68%)、「足りない」(0%)、「多すぎる」(0%)と比較すると、同程度である。「足りない」「多すぎる」と答えた者は17%であり、満足度は高いようである。また「礼儀作法」や「就職の授業」「プレゼン能力・コミュニケーション能力・パソコンのスキル」などの授業を希望しており、厳しい就職状況を反映している。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援の間に97%の者が「適切であった」(69%)、もしくは、「概ね適切であった」(28%)と回答しており、他のコースと比べると高い値の傾向である。

【自由意見】

特になし。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

全般的な質問で、「研究室での卒研やゼミ」(70%)と値が高い。適切な研究室配属とその後の学生生活を反映していると考えられ、これからも高い水準を維持したい。空調設備が普及したためか、教育研究施設(学習環境)についての肯定的評価(満足できた23%+ほぼ満足できた53%)が高い。コース分属では、とくに問題は見られない。シラバスも肯定的評価が90%を占めた。「授業がシラバスに沿って実施されていた」と、「ほぼ実施されていた」を含めると97%となる。来年も一層のシラバスの質の向上と実行に努めたい。昨年に比較して満足できた授業の数が増加した。ただし「実力がつかなかった」と「不親切でわかり難い」が上位を占めており、理解不足の学生に対するティーチング・スキルの向上が求められる。専門科目への要望として高度な授業内容の実施を望む傾向が昨年と比べると増加している。ただし、少しレベルを下げて欲しいという要望も、昨年と同様の値であった。両者のバランスを考えて、授業内容を考える必要がある。また、就職状況を反映してか、「礼儀作法」や「就職の授業」「プレゼン能力・コミュニケーション能力・パソコンのスキル」などの授業改善を望む傾向がある。これらの能力を増進するため、学生のセミナー発表の機会を増やして、向上に努めたい。

生物科学コース

本コース卒業予定者 52 名中 20 名から回答を得た。回収率は 39%であり、昨年（74%）に比較し低い。よりよいフィードバックのためには、回収率を上げる必要がある。

【全般的な質問】

「研究室での卒研やゼミ」と「友人との出会い」においておのおの 75%の学生が満足と回答しており、これは例年と同様な傾向であった。おおむね良好と判断される。例年 50%程度ある授業への満足度が 20%と低く、不満足度が 56%と高いのが特徴的である。しかし、不満足な学生が急増したとは考えにくく、サンプル数を増やした次年度のアンケート結果を踏まえ、判断する必要がある。理学部開設の授業科目においての満足度はそれほど低くはなく（後述）、20%の満足度にはやや首を傾げざるをえない。共通教育科目に関しては、満足と不満足がおおむね拮抗している。今年のサンプルは比較的授業に関し辛い学生を拾っている可能性もあり即断はできないが、カリキュラムの編成変更がしばしばなされ、教員も学生も十分には対応しきれていないのが一因とも考えられる。自由意見には専門（生物）とあまりにも離れた内容が不満として述べられている。その一方でより多く政治や経済の分野を学びたい学生もいる。教育研究施設については 90%の学生がおおむね満足しており、改修の効果が十分にあがっていると判断できる。

【コース分属】

本コースには不本意分属者はいない。

【シラバス】

ほぼ 9 割りの学生が役にたったと肯定的な回答を寄せている。この傾向はおおむねシラバスに沿って授業が実施されていたと回答した学生の割合と同様である。受講の指針としてシラバスが有効に利用されていると判断してもいいであろう。

【受講科目の感想】

満足した授業の数では 20 から 40 の枠におおむね 7 割の回答が含まれており、肯定的な数字と受け止められる。しかし、10 以下と回答した学生も若干ながら存在する。学生の学力にばらつきがある現状では、すべての学生が満足する講義の実施は困難である。学力が中位の学生に講義のレベルをあわせれば、上位と下位の学生は不満を感じるであろう。生物コースでは受講者数が 100 名程度の専門科目もあり、人数が多い分、個人的なケアは難しい。満足した理由としては「専門分野の実力がついた」が 65%と最も多く、これは好ましい値である。満足しなかった授業の数は 9 割の学生が 20 以下であり、生物科学の教員は大人数の学生を抱えながらも、よく健闘していると評価をしてもいいだろう。

【標準履修モデル】

9 割の回答者がおおむね肯定的にとらえており、おおきな欠陥はないと判断される。

【専門科目への要望】

他のコースに比較し、生物科学コースでは高度な授業を望む傾向が強い。レベルを下げてほしいという要望はその一方で少ない。もう少し授業内容を高度にしてもよいかわかれるが、基礎的事項の徹底も大切であり、修士での教育も念頭に、慎重に検討する必要があるだろう。実験実習の充実をのぞむ声も多いが、現状の教員配置では、対応は困難である。実験実習の軽減をのぞむ学生は皆無であり、これは生物科学コースの学生が比較的高い学習意欲をもっていることを意味すると考えられる。

【成績評価】

適切とおおむね適切が 9 割をしめ、成績評価に関しては学生におおきな不満はないと考えられる。

【授業改革】

授業科目数と内容はおおむね肯定的にとらえられている。

【アドバイザー教員制度】

おおむね肯定的に受け止められている。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

低学年から専門性の高い授業を指向する学生と広く様々な分野を学びたい学生がいる。この両者を満足させるカリキュラムは編成困難であることは理解できる。「大学学」以来、導入教育が重視され、卒業要件の単位とされてきたが、現場の教員としてはその効果は確信できないし、客観的に効果が検証されたこともないと思われる。であるならば、導入教育の単位をオーソドックスな科目の単位に振り替えて、学生の選択にまかした方が教育の実があがり、すくなくとも多様な分野を学びたい学生の満足度は高まるのではないか。

本コースの学生の学習意欲が相対的に高いことはよろこばしい。より高度な授業内容を求める声も強いので、対応をする必要がある。しかし、学生間に意欲と学力のばらつきが大きいのも事実であり、「不可」の学生も少なくはない。したがって、全体的に授業のレベルを上げつつ、低意欲・低学力の学生を一方でケアをする必要がある。それには少人数のクラス編制が求められるが、教員はすでに手一杯の状況であり、実現は困難である。実験実習の充実をのぞむ声も多いが、特に生物学分野では野外での実習においては危険が伴うため、安易な対応は安全面から見て問題が多い。対応の困難さは本コースに多人数の学生が在籍することに一因があり、理学部各コースが学生数においておおむね平準化する方向へむけての取り組みが必要と考えられる。

地球史環境科学コース

【全般的な質問】

高知大学での勉学や生活で満足できるものに対する回答として、「研究室での卒研やゼミ」「友人との出会い」がそれぞれ 64%と 77%で選択肢の中で 1 位と 2 位である。これは、理学部全体の平均的な傾向と同じである。

地球史環境科学コースの回答を他コースと比べると、「親からの自立」(23%) が最も低くなっていることも含めて、特に突出した違いは見られず、各コースの平均的な数値となっている。他コースとの比較では、「課外活動」で満足度の高いのが比較的目立つ程度である。

過去のデータを参照すると、年ごとの変化が激しいようであり、「授業」については、33%→17%→36%→36%と推移している。また、「先生との出会い」の項目は、53%→17%→36%→45%と、類似のパターンを示しており、年ごとの違いが大きいことが分かる。

共通教育の授業に対する満足度は 17%であり、全コースの中で中位であった。

教育研究施設（学習環境）への満足度についての回答は、「満足できた」と「ほぼ満足できた」との合計が 87%で、他コースと比べて同様の数値であった。

就職支援活動についての回答は、「満足できた」「ほぼ満足できた」が合計 46%であった。

ボランティア活動については、「参加したことがある」と回答した学生が 22%と全コースの中で 3 番目に低く、活動に対する満足度も 20%と各コースの中で最低であった。

その他、毎回のことであるが、今回も以下の意見があった「学務課の共通教育の窓口の人は対応がかなりいい加減で証明書発行の窓口の人にもこちらの質問に対し的を得ていない返事をする人がいて対応が悪い」。このことは何時になったら改善されるのであろうか。

【コース分属】

第 1 希望のコースに分属した割合について、地球史環境科学コースは 83% と他コースに比べると若干低かった。これは、第 2 希望のコースに分属した学生 (13%) が他コースに較べて多いことと対照的である。

【シラバス】

シラバスが役に立ったかどうかに対する回答は、全コース中で最高値 (「役立った」64%) であった。また、授業がシラバス通りに行われたかどうかに対する回答では、「実施されていた」「ほぼ実施されていた」を合わせると、91% の学生がシラバスの授業計画に沿って実施されていたと回答している。

【受講科目の感想】

理学部開設授業の中で満足できた授業の数を問う質問には、30-40 と答えた学生が 43% と最も多く、この科目数は他の全てのコースに比べて最高の数値である。満足した理由についての回答では、「専門分野の実力がついた」70%、「親切で丁寧な授業であった」39%、「教材を工夫していた」26%、「教員の熱意が感じられた」39%「授業が一方的でなかった」13%、「授業内容が斬新だった」22%となっており、これらの項目は他コースと大きな差異は見られなかった。他方、満足しなかった理由に対する回答では、「不親切でわかり難い授業だった」47%、「一方的な押し付け授業だった」37%の各項目で割合が高く、第 1 希望の通りに分属できた学生が少ないと、苦手な分野、あるいは興味を持ちづらい分野の講義の受講を強いられる機会が多くなるためにこのような評価になる可能性もある。しかし、不本意分属学生が多いほど、教員の努力がいっそう求められるので、これらの点について改善していく必要がある。

【標準履修モデル】

「基礎教育科目と専門コア科目は、授業内容や難易度において適切に配置されましたか」との問いに対して、26%が「適切」、57%が「おおむね適切」と回答しており、平均的な数値であった。

教育目標と標準履修モデルとの整合性については、22%が「合致」、57%が「おおむね合致」と回答している。

【専門科目への要望】

難易度に関する質問 21 では、「全くそのとおりである」が 22%、「概ねそのとおりである」が 49%であり、より高度な授業を要望している傾向が認められる。しかし、質問 22 では、「概ねそのとおりである」が 73%と全コースで最高であった。この数値を見る限り、学生からみた場合、授業レベルとは何を持って推し量るのか考えてしまう。

実習の時間を増やしてほしいという回答は概ねを含めると 69%と高い割合になっているとおり、考慮する必要がある。その一方で、「サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実験実習の授業時間を軽減してほしい」かどうか、に対して「全くその通り」との回答が 43%と他と比べて格段に高いのは学習意欲の低さを表しており、大学生の履修態度として問題である。

【成績評価】

成績評価が「適切」であったとの回答が (20%)、「おおむね適切」を併せた数値も 90%と全コースで最高であった。

【授業改革】

授業科目数と内容は適切かとの問いに対して、「適切」17%、「おおむね適切」70%で、他コースと類似の結果である。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導・支援が適切かどうかを問う質問に対して、「適切」65%、「おおむね適切」30%であった。両者の合計 95%は他コースと類似の結果である。

【自由意見】

「教授 1 人あたり専門 5 科目くらいずつあったほうが、研究室に配属になった時に予備知識をもてますし、全く関係ない授業を取るよりはためになると思う」との自由意見に対しては、真意ははっきりしないが、研究室内外、あるいは教員相互の連携が十分でないことを指摘している可能性がある。

【分析と今後の教育へのフィードバック】

質問 9 の回答結果に見られるとおり、地球史環境科学コースが第 1 希望ではなかった学生が多く、このことがアンケートの回答にも表れていると考えられる。所謂、不本意分属と無関係ではないであろう。不本意分属の学生が多い状況では、学生の現状や希望をくみ取り、それに応える力が教員に求められる。しかし現実には、教員の資質についての疑問が自由意見として書かれるなど、そのような期待に応えられる状況になっていない。このことを教員が真摯に受け止め、まず学生の現状や希望を把握し理解する努力が必要である。

一方、これらの課題のすべてがコース所属の教員の責任というわけではない。不本意分属は、大枠で学生を受け入れるという現行の入試システムが根本的にはらむ問題でもある。また、地球史環境科学コースでは、理学部と海洋コア総合研究センターに分かれて卒論指導を受けるために学生同士の交流が減り、教員相互の連絡にも手間がかかり、連携が不十分になりがちになるなどの物理的問題も抱えている。また、災害コースと共通の問題として、高校で地学履修の選択肢が少ないという背景も大きく影響している。

これらは、早急に改善することは困難とみられるが、改善可能なカリキュラム上の課題もある。地球科学分野は、本来フィールドワークを通して理解すべき事柄が多い。フィールドワークは、学生に学習・研究の意欲を湧かせる効果も絶大である。しかし、現在のカリキュラムは、講義と室内での実習を前提としており、フィールドワークは休日に実施せざるを得ない状況に追い込まれている。特別授業期間は、集中講義や学会などで日程が詰まっており、フィールドワークの期間としては不十分である。これまで野外巡検を実施してきた水曜日ですら、介護体験などの実習が加わり、実施困難となっている。このような体制が地球史環境科学コースの教員・学生の生活を圧迫し、余裕をなくさせていることも指摘しておきたい。

防災科学コース

防災科学コースでは卒業予定者 33 名のうち、1 名を除く 32 名から回答を得た。回答率は 97%である。

【全般的な質問】

高知大学における勉学や生活での満足度をみると「友人との出会い」(88%)が最も高く、次いで「課外活動」(69%)と「卒研とゼミ」(63%)が高い。このうち「卒研とゼミ」の満足度は前年度の 44%から大きく回復した。「授業」(38%)や「先生との出会い」(41%)はいまだに低めであるが、前年度の 11%、33%に比べるといずれも改善され、授業については全コースの平均的なレベルまで満足度は向上したが、その一方で「授業」に対する不満度の大きさは 62%と全コースで最も高く、自由意見に「地学系の授業を増やして欲しい」「企業と触れ合う機会が欲しい」などが挙げられたことから、カリキュラム構成などに改善の必要

があるのではないかとと思われる。「親からの自立」に対する満足度は全コースで最も低くわずかに 3%である一方、それに対する不満度の高さは 19%と他コースと比べてもあまり大きくはなかった。他コースに比べると「授業」に対する満足度の低さが目立ち、併せて「卒研とゼミ」の満足度も昨年度の 66%に比べると今年度は 44%に低下した。不満度の大きかったものの調査結果にも授業に対する不満（50%）が表れている。ただし授業に対する不満度の高さからみれば他コースとも事情はほぼ同じである。不満を感じたものには「卒研とゼミ」（5%）や「友人とのトラブル」（5%）をあげた学生もいるが「先生とのトラブル」は無くなった。共通教育の授業は満足できたとはほぼ満足できたを含めて 88%と多数を占め、昨年より大きく改善された。教育研究施設（学習環境）に対する感想は満足できたとはほぼ満足できたを含めて 87%と多数を占めた。自由意見では WEB 履修登録が学外から出来ないことに対する不満が寄せられた。就職支援活動では満足できたとはほぼ満足できたを含めて 72%と全コースで最も高く満足できなかったものも少なかった。ボランティア活動には全コースで最も高い 31%の学生が参加して、全員がそれなりの満足感を感じているが、防災科学コースの専門性と直結した防災すけっと隊の存在が大きいと思われる。

【コース分属】

全員が第 1 希望のコース分属であり、転学科・転コースの申請をした者もない。

【シラバス】

シラバスが役立ったあるいは役立つこともあったと肯定的に評価するものは 97%に上り、授業がほぼシラバスとおりに実施されていることも多くが好意的に認めている。

【受講科目の感想】

理学部で開講実施されている受講科目に対する満足度は全体として良好といえよう。中程度の満足数(20-30 科目)と答えたものが 38%と最も多く、これよりも幾分満足度の高い授業数（30-40 科目）の 22%と極めて高い授業数（40 以上）の 6%を加えると 66%であり、満足度の最も低い（10 以下）は皆無であった。満足できた理由としては「専門分野の実力がついた」と「教員の熱意」や「親切丁寧な授業」があげられている。満足できなかった授業数は 10 科目以下（72%）に集中し、次いで 10-20 科目の 19%で合計 91%を占め、他コースにくらべれば専門課程の授業に対する不満度はかなり低い。不満の理由としては「実力がつかなかった」、「一方的な押し付け授業」、「不親切な分かり難い授業」を指摘している者が多かった。

【標準履修モデル】

標準履修モデルの授業科目については、基礎教育科目と専門コア科目の配置、専門コア科目と専門専攻科目の配置、コースの教育目標に対してはそれぞれ 94%、87%、91%の肯定的な支持が得られた一方、否定的な評価が前年度よりわずかながら増加している。

【専門科目への要望】

専門科目の高度化に対してこれを支持するもの（53%）がそうでないもの（47%）をわずかに上回った程度であったが、授業内容のレベルを下げる（易しくする）ことについては 75%が否定的であった。また、「最前線の研究成果や手法を学ぶために、実験実習の時間を増やして欲しい」との要望があることに対しては、賛成が 78%を占めた。「サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実習実験の授業時間を軽減して欲しい」との要望があることに対しては、当然ながら反対が多数を占めている（84%）。また、「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」の要望に対しても、63%が賛同を示した。この件に関しては自由意見がいくつか寄せられたので列記する。①人間関係の充実。②人との出会い。③計画をたて、物事を実行すること。④南海地震に対する防災意識を持つこと。

【成績評価】

成績評価の方法や自分の成績評点結果について適切あるいは概ね適切と考えた学生はそれぞれ、75%、69%であった。自分の成績評点結果についても 69%である。しかし、成績評価に対する不満者は「適切でない授業もあった」が 31%あり、前年度よりは低下したものの、いまだ他コースに比べてやや多い。

【授業改革】

防災科学コースが開設する授業科目数と内容に関しては概ね満足されて(94%)おり、「少ない」と物足りなさを訴える学生も大きく(6%)減少した。具体的な要望としては、より実践を考えた教科内容、インターンの斡旋、インターンシップの単位増、コミュニケーションをつける授業、フィールドワークなどが挙げられており、企業や研究所へのインターンシップを通じた実践的な講義への要望が強いように見受けられた。

【アドバイザー教員制度】

アドバイザー教員の指導支援については 94%の学生が適切あるいは概ね適切であったと評価している一方、適切ではなかったと答えた学生も 3%いることは昨年同様問題と思われる。

【理学部の教育や高知大学の教育全般】

防災意識やフィールドに対する興味が高い学生ならではの自由意見が以下のように寄せられている。

- ① 気象分野を履修する上でネットワーク、プログラム関連をもっと履修したかったが他学科の講義で履修できる単位が少なく、十分履修できない。
- ② 学生や教員との距離をもっと身近なものにし、1つの授業の関係だけでなく、他の勉強や生活においても協力し合い、高めていけるようなものにして欲しい。
- ③ 高知県は地震の恐れがあるので、それに対する授業をもっとみんなが取るべきだと思う。

【今後の教育へのフィードバック】

授業そのものについては概ね高い評価を受けているが、インターンシップなどの実践的授業や「防災科学」という総学的な履修コースに対するカリキュラム構成については改善の余地があることが示された。また、「教員とのトラブル」が減った一方で、フィールド系の専門性ゆえに教員や研究室内でのより親密な交流を要望としてあげる者もあり、卒業研究のみならずさらに低学年から個人レベルに応じたきめ細かな指導ができるような体制作りが望まれる。

それなりの評価を受けた専門分野授業についても内容改善に向けての要望は一部に依然として強く残っており、「一方的な押し付け授業」、「不親切な分かり難い授業」に対する教員個々の改善努力が望まれる。「野外・室内の区別を問わず実験と実習の充実」の要望は以前からあり、例年のごとくフィールドワークの強化が要望されたのに加え、より実践的なインターンシップ実施への要望が目立った。このことは、本学部の中でも特に具体的な目標が明確である防災科学コースの理念を学生自身が強く意識していることの現れであり、コースとしてもこれに答えるべく更なる授業構成の充実に取り組まねばならない。

Ⅱ．集計結果

【所属】

1. あなたの所属するコースを下記より選んでください。

- A. 数理科学コース B. 情報科学コース C. 物質基礎科学コース
 D. 物質変換科学コース E. 生体機能物質工学コース F. 生物科学コース
 G. 地球史環境科学コース H. 防災科学コース

| | A | B | C | D | E | F | G | H | 計 |
|--------|----|----|----|-----|-----|----|----|----|-----|
| 卒業者数 | 44 | 32 | 19 | 35 | 30 | 52 | 26 | 33 | 271 |
| 回収件数 | 43 | 25 | 17 | 35 | 30 | 20 | 23 | 32 | 225 |
| 回収率(%) | 98 | 78 | 90 | 100 | 100 | 39 | 89 | 97 | 83 |

【全般的な質問】

2. 高知大学での勉学や生活で満足できたものを下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生との出会い D. 友人との出会い
 E. 課外活動 F. 親からの自立 G. その他 ()

(%)

| | A | B | C | D | E | F | G |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|
| 数理科学コース | 37 | 53 | 53 | 77 | 14 | 35 | 3 |
| 情報科学コース | 50 | 58 | 38 | 83 | 17 | 33 | 4 |
| 物質基礎科学コース | 44 | 69 | 63 | 81 | 63 | 31 | 0 |
| 物質変換科学コース | 26 | 71 | 54 | 89 | 37 | 17 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 30 | 70 | 67 | 40 | 33 | 7 | 0 |
| 生物科学コース | 20 | 75 | 45 | 75 | 15 | 20 | 10 |
| 地球史環境科学コース | 36 | 64 | 45 | 77 | 41 | 23 | 5 |
| 防災科学コース | 38 | 63 | 41 | 88 | 69 | 3 | 0 |

G. その他

数理科学コース

- ・ 質問をすれば丁寧に答えてもらった。

物質基礎科学コース

- ・ 自分から積極的に学ぶ習慣が身に付いた。
- ・ サークル

生体機能物質工学コース

- ・ 理学部の先生方は本当に教育熱心で、心より感謝しています。ありがとうございました。
- ・ アドバイザー〇〇先生には大変お世話になりました。〇〇先生をはじめ、勉強が出来ないのに理学部の生体機能コースの生化学研で丁寧にご指摘いただくことができ、嬉しかったです。ありがとうございました。

生物科学コース

- ・ 卒業論文。コガタチサンショウウオ、イシブチサンショウウオ、ヌマガエル、ナゴヤダルマガエルとの出会い。

地球史環境科学コース

- ・ 野外巡検やケーススタディなどで、高知大学の近くの土地を利用した学習ができたことは良かったです。ただ地球史環境科学コースでは、3 回生にならないと受けられない授業が他のコースより多く感じられました。ですが概ね満足です。

3. 高知大学での勉学や生活で満足できなかったものを下記より選んでください。(複数回答可)

A. 授業 B. 研究室での卒研やゼミ C. 先生とのトラブル D. 友人とのトラブル
E. 課外活動 F. 親からの自立 G. その他 ()

(%)

| | A | B | C | D | E | F | G |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|
| 数理科学コース | 43 | 0 | 0 | 6 | 47 | 14 | 0 |
| 情報科学コース | 27 | 13 | 0 | 7 | 53 | 0 | 13 |
| 物質基礎科学コース | 50 | 0 | 0 | 25 | 25 | 25 | 0 |
| 物質変換科学コース | 50 | 9 | 0 | 0 | 27 | 36 | 14 |
| 生体機能物質工学コース | 37 | 21 | 16 | 11 | 37 | 26 | 10 |
| 生物科学コース | 56 | 6 | 0 | 0 | 31 | 25 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 39 | 6 | 6 | 11 | 22 | 28 | 6 |
| 防災科学コース | 62 | 5 | 0 | 5 | 19 | 19 | 0 |

G. その他

数理科学コース

- ・ 楽しく学べる授業が少なかった。
- ・ 授業に対する姿勢の悪い先生が数人いた。
- ・ 大学の先生方はプライドが高い先生が高く、授業についていくのが難しかった。

情報科学コース

- ・ 出席点をもっと上げて下さい
- ・ 卒業論文発表会は、1日の方が他人の発表を集中して聞けるので2日間だと、集中力がもたなかった。あと、シラバスで、授業の取り方がいまいち理解できずに受けたくない授業まで受けてしまったので、選択できる授業は具体的に書いて欲しい。
- ・ 毎週先生が違う授業があったのですが、15人中3人の先生が授業を忘れて来なかったことがある。

物質基礎科学コース

- ・ 出席点が全くない授業があった。テストだけで成績をつけるのはやめてほしい。
- ・ 物質科学科なのに、卒業研究をしなくても卒業できる制度は、何の意味もなさないと思います。

生体機能物質工学コース

- ・ 各学部に対するサービスセンターの人の態度があまりよろしくないと思う。

地球史環境科学コース

- ・ クラス会やオリターなどの半強制的な勧誘
- ・ 学務課の共通教育の窓口の人は対応がかなりいい加減で証明書発行の窓口の人にもこちらの質問に対するのを得てない返事をする人がいて対応が悪い。
- ・ 専門の集中講義が重なることがあった。どちらの受講したいが不可能であったことがあるので避けてほしい。

4. 共通教育の授業は満足できるものでしたか。

A. 満足できた B. 満足できる授業が多かった
C. 満足できる授業が少なかった D. 満足できなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|---------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 23 | 51 | 23 | 2 |

| | | | | |
|-------------|----|----|----|---|
| 情報科学コース | 12 | 60 | 20 | 8 |
| 物質基礎科学コース | 24 | 47 | 24 | 6 |
| 物質変換科学コース | 15 | 47 | 38 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 24 | 31 | 38 | 7 |
| 生物科学コース | 5 | 50 | 45 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 17 | 52 | 22 | 9 |
| 防災科学コース | 23 | 63 | 13 | 0 |

ご意見があればお書きください。

数理科学コース

- ・ 質問をすれば丁寧に答えてもらった。
- ・ おもしろそうな授業なし
- ・ 楽しく学べる授業が少なかった。
- ・ 受講者の私語がうるさい
- ・ ○○人がうるさい。別に分けてほしい。

情報科学コース

- ・ 出席点をもっと上げて下さい

物質基礎科学コース

- ・ 授業によっては出席を全く考慮しないものがあるが、学生としては少しは考えてほしい。テストの点が悪くても、出席をきちんとしていれば、レポートであるとかアフターケアなどがあると頑張って出席して授業を受けようという気になる。結果も大事だがそのプロセスも見えてほしい。
- ・ 履修した講義に偏りがあったのもありますが、レポート課題等、授業内容の定着につながる工夫がされていたと思います。一方で、ただただ話していたり、板書が非常に見にくい(字の大きさや書き方等)先生もおられたので、その点が気になりました。全体的には講義の種類も多く、時間割の調整もしやすく良いと思います。
- ・ 人数制限があり取りたい授業を取れないことがあった。

物質変換科学コース

- ・ 1つの授業で進む内容が多いので、分割して授業数を増やした方がよいと思う。
- ・ 実験の授業で時間内に終わらないものが多かったので、時間内で終わる程度の内容に分割して、授業をいくつかに分けた方がよいと思う。
- ・ 授業の時間割がかぶっているものが多かったので、ばらけさせてもらいたかったです。
- ・ もっと様々な分野の授業をしてほしいです。授業を増やすというのと、他コース等の授業も、もっと受けられるようにしてほしい。実験をもっと入れてほしい。
- ・ 真面目に授業を受けている者と、出席のみをとる、内職(他科目、他授業の勉強)ばかりする等して、授業をまともに受けていない人間との差が明確に出るような評価をできるようにしてほしい。過去問題の蔓延、先輩からのレポートデータの継承等によって、その評価を実現するのは重々承知しているが、真面目に授業を受けている者に対して理不尽である。
- ・ 一般教養や専門科目を自分の(先生の)考えや気持ちだけで評価するのはやめてもらいたい。
- ・ カンニングをしているやつがいっぱいいるのももっと厳格にとりしまつてほしい。
- ・ カンニングが多すぎる。まじめにやっているやつがバカみたいなのですぐ直してほしい。
- ・ カンニングが多い。何とかしてほしい

生体機能物質工学コース

- ・ 先生がその分野を好きなことが伝わってきた。内容が面白かった。
- ・ 行くのがバカらしい授業だった。
- ・ もっと深く広く。

- ・ 履修できる範囲が少ない。もっと色々な教科がやりたい。
- ・ うるさかったです。携帯のバイブとか、PC 見て笑っている人とか。
- ・ 1つ分野をⅠ→Ⅱ→Ⅲのように分けて勉強する期間を増やしてほしい。

生物科学コース

- ・ 必要単位が多すぎると思います。
- ・ 自分の専門とあまりにも離れた内容のものばかりだったから。
- ・ 実際にフィールドに出て授業を受けることが出来たので理解しやすかった。
- ・ 理学部であっても、もう少し政治・経済など社会とのかかわりが強い授業を受けることが出来れば、もう少し充実したものになったと思う。

地球史環境科学コース

- ・ 退屈しなかった。
- ・ 興味がひかれなかった。

防災科学コース

- ・ 地学系の授業にももう少し選択肢がほしかった。
- ・ 企業とふれあう機会など

5. 教育研究施設（学習環境）は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 30 | 51 | 16 | 2 |
| 情報科学コース | 20 | 64 | 16 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 24 | 47 | 29 | 0 |
| 物質変換科学コース | 14 | 80 | 6 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 23 | 53 | 17 | 7 |
| 生物科学コース | 30 | 60 | 10 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 35 | 52 | 13 | 0 |
| 防災科学コース | 31 | 56 | 13 | 0 |

ご意見があればお書きください。

数理科学コース

- ・ 数理にも4回のゼミ室がほしかったです。
- ・ イスがかたくて座っていると痛かった。
- ・ 理学部棟やメディアの森等の使える時間を増やしてほしい。朝に使える時間がほしかった。
- ・ 総合棟の自習室を1日中開けてほしい。理学部棟の2号館の鍵を4回生もほしかった

情報科学コース

- ・ 落ち着いた学習が可能であり、満足しております。

物質基礎科学コース

- ・ 2年か3年の時から総合研究棟の自習室もでき、メディアの森ともに良く利用させていただきました。理学部棟に自習室があることを4年になるまで知らなかったのも、もう少し開放していただけたらともっとうれしいです。

物質変換科学コース

- ・ レポートなどで、カラーで印刷したいときに、今は出来ないのも、カラーで印刷できるプリンターを少し置いてほしい。あと、事務室の方が少しこわいです。変換コースが他の物質科学科のコースと比べて比較的いそがしい

と思うので、専門授業を1年生のときから同じ量で学びたい。

- ・ 1～3年のときは試験近くになると、メディ森の席があいてなくて不便だった。新しい本の入荷が遅い。メディ森の方の対応がよい。
- ・ メディアの森をもう少し遅くまで利用したかった。
- ・ 教室にエアコンが入ってすごく快適になった。しかし、共通教育棟のエアコンの使い方を知らない先生もいた。

生体機能物質工学コース

- ・ メディアの森の利用時間をもっと長くしてほしい。
- ・ メディ森や自習室の使用できる時間をもっと長くしてもらいたい。

生物科学コース

- ・ 1、2年の時はエアコンなどなく、苦しかった。

地球史環境科学コース

- ・ 自習スペースや無線 LAN を使える場所が少ない。
- ・ 冬の教室は寒いのでエアコンを早めにつけておいてほしい。

防災科学コース

- ・ 履修登録が学内のサーバーからしか出来なくなって不便。帰省中に登録できないと友人に頼むことも出来ない。

6. 高知大学の就職支援活動は満足できるものでしたか。

- A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|----|
| 数理科学コース | 9 | 47 | 37 | 7 |
| 情報科学コース | 9 | 48 | 39 | 4 |
| 物質基礎科学コース | 13 | 25 | 50 | 13 |
| 物質変換科学コース | 11 | 46 | 34 | 9 |
| 生体機能物質工学コース | 15 | 30 | 41 | 15 |
| 生物科学コース | 11 | 56 | 28 | 6 |
| 地球史環境科学コース | 5 | 41 | 36 | 18 |
| 防災科学コース | 29 | 43 | 29 | 0 |

ご意見があればお書きください。

数理科学コース

- ・ 学内の企業説明会で来ていた企業から内定をいただきました。
- ・ 就職活動は自分でするものなので支援してもらったとは思ってないです。

情報科学コース

- ・ あまり就職に関してはアドバイスをもらってないが、1、2回行って中々満足できた。
- ・ 資格取得のための授業などがもっと欲しかった。
- ・ 就活してないので
- ・ 活用しなかった為の回答である

物質基礎科学コース

- ・ あまり大学に企業が来てくれない
- ・ 進学を決めていたので、ほとんど参加していません。
- ・ 他大学と比べるとあまり支援してくれない。

物質変換科学コース

- ・ 就活してないです。
- ・ いつ、何をやっているのか、何をやればいいのかあまり分からなかった。

生体機能物質工学コース

- ・ 説明が分かりにくかった。

生物科学コース

- ・ 就職活動をしていないので記入できません。
- ・ 使えないです。自分でやったほうが早い。
- ・ 利用してません。

地球史環境科学コース

- ・ 就活を行っていない。

7. 在学中に高知大学公認あるいは非公認のボランティア活動に参加したことがありますか。

A. ある B. ない

(%)

| | A. ある | B. ない |
|-------------|-------|-------|
| 数理科学コース | 21 | 79 |
| 情報科学コース | 28 | 72 |
| 物質基礎科学コース | 29 | 71 |
| 物質変換科学コース | 26 | 74 |
| 生体機能物質工学コース | 30 | 70 |
| 生物科学コース | 15 | 85 |
| 地球史環境科学コース | 22 | 78 |
| 防災科学コース | 31 | 69 |

8. 「ある」と答えた方に質問します。その活動は満足いくものでしたか。

A. 満足できた B. ほぼ満足できた
C. あまり満足できなかった D. 満足できなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 50 | 42 | 8 | 0 |
| 情報科学コース | 57 | 43 | 0 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 80 | 20 | 0 | 0 |
| 物質変換科学コース | 33 | 56 | 11 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 33 | 44 | 22 | 0 |
| 生物科学コース | 67 | 33 | 0 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 20 | 60 | 20 | 0 |
| 防災科学コース | 60 | 40 | 0 | 0 |

生体機能物質工学コース

- ・ 高知県は若年の献血離れが問題視されています。もっとボランティア活動にも力を入れてみればどうでしょうか。

続いて理学部に関する質問です。

【コース分属】

9. あなたは希望するコースに分属できましたか。

- A. 第 1 希望コースに分属した B. 第 2 希望コースに分属した
C. 希望と異なるコースに分属した

(%)

| | A | B | C |
|-------------|-----|----|----|
| 数理科学コース | 100 | 0 | 0 |
| 情報科学コース | 79 | 4 | 17 |
| 物質基礎科学コース | 94 | 6 | 0 |
| 物質変換科学コース | 94 | 6 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 97 | 0 | 3 |
| 生物科学コース | 100 | 0 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 83 | 13 | 4 |
| 防災科学コース | 100 | 0 | 0 |

10. あなたは転学部・転学科・転コースの申請をしたことがありますか。

- A. はい B. いいえ

(%)

| | A. ある | B. ない |
|-------------|-------|-------|
| 数理科学コース | 0 | 100 |
| 情報科学コース | 4 | 96 |
| 物質基礎科学コース | 6 | 94 |
| 物質変換科学コース | 0 | 100 |
| 生体機能物質工学コース | 0 | 100 |
| 生物科学コース | 10 | 90 |
| 地球史環境科学コース | 0 | 100 |
| 防災科学コース | 0 | 100 |

11. あると答えた方のみに質問します。申請は受け入れられましたか。

- A. はい B. いいえ

(%)

| | A. ある | B. ない |
|-------------|-------|-------|
| 数理科学コース | - | - |
| 情報科学コース | 0 | 100 |
| 物質基礎科学コース | 100 | 0 |
| 物質変換科学コース | - | - |
| 生体機能物質工学コース | - | - |
| 生物科学コース | 100 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 0 | 100 |
| 防災科学コース | - | - |

【シラバス】

12. 理学部の授業シラバスについてお聞きします。シラバスは授業選択に役立ちましたか。

- A. 役立った B. 役立つこともあった
C. あまり役立たなかった D. 役立たなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 53 | 35 | 9 | 2 |
| 情報科学コース | 40 | 48 | 12 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 53 | 47 | 0 | 0 |
| 物質変換科学コース | 43 | 49 | 6 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 50 | 40 | 10 | 0 |
| 生物科学コース | 50 | 45 | 5 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 64 | 32 | 5 | 0 |
| 防災科学コース | 59 | 38 | 3 | 0 |

13. 授業はシラバスの授業計画に沿って実施されていましたか。

- A. 実施されていた B. ほぼ実施されていた
C. 余り実施されていなかった D. 実施されていなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 16 | 72 | 9 | 2 |
| 情報科学コース | 12 | 88 | 0 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 6 | 88 | 6 | 0 |
| 物質変換科学コース | 6 | 82 | 12 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 30 | 67 | 3 | 0 |
| 生物科学コース | 20 | 80 | 0 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 17 | 74 | 9 | 0 |
| 防災科学コース | 9 | 84 | 6 | 0 |

【受講科目の感想】

14. あなたが在学期間中に受講した理学部開設授業（講義、実験、演習、セミナー）の印象をお聞きします。満足できた授業の数はおよそいくつでしたか。

- A. 40 以上 B. 30－40 C. 20－30 D. 10－20 E. 10 以下

(%)

| | A. 40 以上 | B. 30－40 | C. 20－30 | D. 10－20 | E. 10 以下 |
|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 数理科学コース | 21 | 23 | 26 | 23 | 7 |
| 情報科学コース | 4 | 17 | 33 | 17 | 29 |
| 物質基礎科学コース | 6 | 18 | 35 | 24 | 18 |
| 物質変換科学コース | 12 | 18 | 32 | 32 | 6 |
| 生体機能物質工学コース | 21 | 24 | 28 | 17 | 10 |

| | | | | | |
|------------|---|----|----|----|----|
| 生物科学コース | 5 | 40 | 30 | 10 | 15 |
| 地球史環境科学コース | 9 | 43 | 22 | 22 | 4 |
| 防災科学コース | 6 | 22 | 38 | 34 | 0 |

15. 満足した理由を下記より選んでください。(複数回答可)

- A. 専門分野の実力がついた B. 親切で丁寧な授業であった C. 教材を工夫していた
D. 教員の熱意が感じられた E. 授業が一方的でなかった F. 授業内容が斬新だった
G. その他(具体的に書いてください)

(%)

| | A | B | C | D | E | F | G |
|-------------|----|----|----|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 49 | 71 | 15 | 27 | 27 | 17 | 2 |
| 情報科学コース | 46 | 71 | 17 | 42 | 25 | 29 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 12 | 88 | 18 | 59 | 6 | 12 | 6 |
| 物質変換科学コース | 67 | 50 | 12 | 44 | 21 | 18 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 62 | 72 | 14 | 59 | 28 | 17 | 7 |
| 生物科学コース | 65 | 45 | 0 | 50 | 5 | 20 | 5 |
| 地球史環境科学コース | 70 | 39 | 26 | 39 | 13 | 22 | 4 |
| 防災科学コース | 71 | 35 | 16 | 42 | 10 | 13 | 0 |

G. その他

16. 理学部開設授業(講義, 実験, 演習, セミナー)のうち, 満足できなかった授業の数はおよそいくつでしたか。

- A. 40 以上 B. 30-40 C. 20-30 D. 10-20 E. 10 以下

(%)

| | A. 40 以上 | B. 30-40 | C. 20-30 | D. 10-20 | E. 10 以下 |
|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 数理科学コース | 5 | 5 | 16 | 33 | 42 |
| 情報科学コース | 8 | 4 | 12 | 24 | 52 |
| 物質基礎科学コース | 0 | 6 | 6 | 30 | 59 |
| 物質変換科学コース | 9 | 6 | 12 | 53 | 21 |
| 生体機能物質工学コース | 11 | 7 | 7 | 10 | 64 |
| 生物科学コース | 0 | 5 | 5 | 25 | 65 |
| 地球史環境科学コース | 0 | 4 | 13 | 22 | 61 |
| 防災科学コース | 0 | 3 | 6 | 19 | 72 |

17. 満足しなかった理由を下記より選んでください。(複数回答可)

- (ア)実力がつかなかった B. 不親切でわかり難い授業だった
C. 教材の工夫が見られなかった D. 教員の熱意が感じられなかった
E. 一方的な押し付け授業だった F. 内容が古すぎた
G. 内容は新しいが断片的だった H. その他(具体的に書いてください)

(%)

| | A | B | C | D | E | F | G | H |
|---------|----|----|----|----|----|---|---|---|
| 数理科学コース | 41 | 54 | 11 | 24 | 38 | 0 | 0 | 5 |

| | | | | | | | | |
|-------------|----|----|----|----|----|---|----|----|
| 情報科学コース | 38 | 50 | 21 | 17 | 38 | 4 | 0 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 35 | 59 | 29 | 0 | 41 | 0 | 0 | 6 |
| 物質変換科学コース | 32 | 79 | 24 | 21 | 53 | 9 | 6 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 27 | 50 | 23 | 23 | 38 | 4 | 12 | 12 |
| 生物科学コース | 31 | 63 | 13 | 19 | 44 | 6 | 13 | 6 |
| 地球史環境科学コース | 32 | 47 | 16 | 21 | 37 | 5 | 5 | 5 |
| 防災科学コース | 40 | 30 | 23 | 23 | 40 | 0 | 3 | 0 |

H. その他

【標準履修モデル】

18. 理学部は授業科目を基礎教育科目（現，基礎科目），専門コア教育科目（現，専門科目のコア科目），専門専攻教育科目（現，専門科目）に大別し，カリキュラムを段階的に学べるように工夫しました。基礎教育科目と専門コア科目は，授業内容や難易度において適切に配置されていなかったか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. 余り配置されていなかった D. 配置されていなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 26 | 64 | 10 | 0 |
| 情報科学コース | 28 | 72 | 0 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 24 | 76 | 0 | 0 |
| 物質変換科学コース | 6 | 76 | 18 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 28 | 62 | 3 | 7 |
| 生物科学コース | 25 | 65 | 5 | 5 |
| 地球史環境科学コース | 26 | 57 | 13 | 4 |
| 防災科学コース | 26 | 68 | 3 | 3 |

19. 専門コア教育科目と専門専攻教育科目は，授業内容や難易度において適切に配置されていなかったか。

- A. 配置されていた B. 概ね配置されていた
C. 余り配置されていなかった D. 配置されていなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 23 | 67 | 9 | 0 |
| 情報科学コース | 20 | 72 | 8 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 6 | 82 | 12 | 0 |
| 物質変換科学コース | 6 | 69 | 26 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 20 | 67 | 10 | 3 |
| 生物科学コース | 25 | 55 | 15 | 5 |
| 地球史環境科学コース | 22 | 65 | 13 | 0 |
| 防災科学コース | 9 | 78 | 13 | 0 |

20. 各教育コースは独自の教育目標を掲げています（履修案内等を参照してください）。この教育目標は標準履修モデルと合致していましたか。

- A. 合致していた B. 概ね合致していた
C. 余り合致していなかった D. 合致していなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 19 | 70 | 12 | 0 |
| 情報科学コース | 20 | 72 | 8 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 6 | 76 | 18 | 0 |
| 物質変換科学コース | 6 | 69 | 23 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 20 | 77 | 3 | 0 |
| 生物科学コース | 15 | 80 | 5 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 22 | 57 | 22 | 0 |
| 防災科学コース | 19 | 72 | 9 | 0 |

【専門科目への要望】

21. 「より高度な授業内容を実施してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 12 | 37 | 49 | 2 |
| 情報科学コース | 16 | 56 | 24 | 4 |
| 物質基礎科学コース | 0 | 59 | 35 | 6 |
| 物質変換科学コース | 17 | 34 | 49 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 28 | 38 | 31 | 3 |
| 生物科学コース | 5 | 80 | 15 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 22 | 49 | 30 | 0 |
| 防災科学コース | 6 | 47 | 41 | 6 |

22. 「難しい授業が多すぎるので、もう少しレベルを下げてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|----|
| 数理科学コース | 26 | 37 | 35 | 2 |
| 情報科学コース | 8 | 24 | 56 | 12 |
| 物質基礎科学コース | 18 | 29 | 47 | 6 |
| 物質変換科学コース | 9 | 17 | 46 | 29 |
| 生体機能物質工学コース | 10 | 24 | 52 | 14 |

| | | | | |
|------------|---|----|----|----|
| 生物科学コース | 5 | 10 | 70 | 15 |
| 地球史環境科学コース | 0 | 9 | 73 | 0 |
| 防災科学コース | 0 | 25 | 69 | 6 |

23. 「最前線の研究成果や手法を学ぶために、実験実習の時間を増やしてほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|----|
| 数理科学コース | 12 | 35 | 44 | 9 |
| 情報科学コース | 20 | 48 | 28 | 4 |
| 物質基礎科学コース | 12 | 29 | 47 | 12 |
| 物質変換科学コース | 23 | 37 | 31 | 9 |
| 生体機能物質工学コース | 47 | 33 | 17 | 3 |
| 生物科学コース | 45 | 50 | 5 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 26 | 43 | 30 | 0 |
| 防災科学コース | 31 | 47 | 19 | 3 |

24. 「サークル活動やアルバイトとぶつかるので、実験実習等の授業時間を軽減してほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|----|
| 数理科学コース | 7 | 14 | 56 | 23 |
| 情報科学コース | 12 | 20 | 52 | 16 |
| 物質基礎科学コース | 0 | 12 | 65 | 24 |
| 物質変換科学コース | 3 | 11 | 51 | 34 |
| 生体機能物質工学コース | 10 | 13 | 33 | 43 |
| 生物科学コース | 0 | 0 | 40 | 60 |
| 地球史環境科学コース | 43 | 22 | 39 | 35 |
| 防災科学コース | 3 | 13 | 59 | 25 |

25. 「社会に出て役立つことを授業に盛り込んでほしい」という要望に対するあなたの意見をお聞きます。

- A. 全くそのとおりである B. 概ねそのとおりである
C. 余りそう思わない D. 全く思わない

(%)

| | A | B | C | D |
|---------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 37 | 35 | 28 | 0 |
| 情報科学コース | 48 | 36 | 12 | 4 |

| | | | | |
|-------------|----|----|----|---|
| 物質基礎科学コース | 18 | 35 | 41 | 6 |
| 物質変換科学コース | 34 | 40 | 23 | 3 |
| 生体機能物質工学コース | 33 | 33 | 27 | 7 |
| 生物科学コース | 30 | 20 | 45 | 5 |
| 地球史環境科学コース | 30 | 22 | 43 | 4 |
| 防災科学コース | 25 | 38 | 38 | 0 |

26. A あるいは B を選択した人にお聞きします。社会に出て役に立つこととはどのようなことを考えていますか。具体的に書いてください。

数理科学コース

- ・ 一般常識など
- ・ 目標を立てた時の必要な情報の集め方
- ・ 物の考え方
- ・ 考え方
- ・ 自分の考えがしっかり伝わるように相手に話す力
- ・ 社会のマナー。大学生と社会人の違いなど教えてほしい。
- ・ 日本経済のこととか
- ・ 今、実践されている新しい技術、知識を利用すること。
- ・ 自分の頭で考えたり、学んだりすることが考えやすく、直結する度合いが少し大きくなること。
- ・ 人の役に立つ

情報科学コース

- ・ マナーに関する授業があったら面白いと思う。
- ・ 会社に入ってから一般常識のようなもの。人権教育(先生を含め、知らない人が多すぎると思う・・・)
- ・ 礼儀やマナーといった社会にでて使いそうなこと。
- ・ 自分が働く上で必要になるであろうスキル
- ・ 時代に合わせた技術の習得
- ・ まだ社会に出たことが無いので、分からないが実際社会に出てみて、必要と感じた技術・知識
- ・ 社会に出るために必要なことや社会に出てから必要とされるもの。つまり、人それぞれだが、こんなことを習っても意味がないというものはどんどん省いていくべきである。
- ・ 実際にどんな事をするとか・・・授業外で教える事です。

物質基礎科学コース

- ・ 就職活動に使えること。マナー、英語など
- ・ 何処の企業、国、地域がどの分野にどのくらい力を入れているか、という情報。学会等に出席していないと、この手の情報が入りづらい。

物質変換科学コース

- ・ 社会人としての基礎力
- ・ 専門知識など。
- ・ 英語力、表現力
- ・ プレゼン能力
- ・ あらかじめ、工場の見学に行って生産ラインを見たり、理系企業の概用を知ること。
- ・ コミュニケーション能力、行動力
- ・ 専門性、人間性、今学んでいることと将来とのつながり。でもある程度は自分で学ぶべきものだと思います。きっかけがあればいいと思います。

- ・ まじめにコツコツやること

生体機能物質工学コース

- ・ 日常に使える専門知識
- ・ プレゼン能力やコミュニケーション能力の向上
- ・ 社会構造や社会のルールなど。就職後に強みとなる深い専門知識。
- ・ 大学の専攻がその後の進路の方向性にとても大きく働くので、自分の専攻の分野の基礎を作ることは社会に出てとても役立つことだと思います。

生物科学コース

- ・ 他の専門分野に関する基礎的な知識・理解があること。日本語以外(英語など)で、実務レベルのコミュニケーションがとれること。ただしこれらのことを現行の教育制度の下で教育できるのかどうかは別に議論すべきであると思います。
- ・ 日常生活をより豊かにすること、自分の強みになること等々。ただ、授業で得た知識が、社会に出て役立つもしくは自分に有益か否かは学生側が判断し、さらに考察する努力をしなければならないと考える。授業が面白くないなら、教員へネタを提供して学ぶ努力をすればよいと思う。
- ・ 人とのコミュニケーション
- ・ 世の中の常識など。先生との立ち振る舞いなど。
- ・ PCやマナー
- ・ 豆知識

地球史環境科学コース

- ・ 少なくとも勉強が出来る出来ないでなくどれだけ要領良いかということ。
- ・ プレゼンテーション能力を身につけること。
- ・ 専門分野で働く人には、知識や技術の向上が出来るようなこと。専門分野以外は、word、Excel、powerpoint の活用術など
- ・ 企画力とそれを運営する力、様々な状態に対応することの出来る柔軟性。

防災科学コース

- ・ 人間関係の充実
- ・ 人との出会い
- ・ 計画をたて、物事を実行すること
- ・ 南海地震に対する防災意識を持つこと

【成績評価】

27. これまで受講した授業について、成績評価の方法は適切であったと思いますか。

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 19 | 64 | 17 | 0 |
| 情報科学コース | 13 | 67 | 17 | 4 |
| 物質基礎科学コース | 31 | 31 | 26 | 3 |
| 物質変換科学コース | 17 | 54 | 26 | 3 |
| 生体機能物質工学コース | 31 | 55 | 14 | 0 |

28. 成績評点は自分の予想と合っていましたか（成績評価が適切に行われたと思いますか）

- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 適切でない授業もあった D. 適切でない授業がたくさんあった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 26 | 52 | 21 | 0 |
| 情報科学コース | 13 | 67 | 17 | 4 |
| 物質基礎科学コース | 19 | 63 | 19 | 0 |
| 物質変換科学コース | 20 | 66 | 11 | 3 |
| 生体機能物質工学コース | 24 | 69 | 3 | 3 |
| 生物科学コース | 20 | 65 | 15 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 30 | 53 | 17 | 0 |
| 防災科学コース | 16 | 53 | 31 | 0 |

【授業改革】

29. 理学部の各学科が開設している授業科目数と内容は適切だと思いますか。

- A. 適切である B. 概ね適切である
C. 足りない D. 多すぎる

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|---|
| 数理科学コース | 24 | 76 | 0 | 0 |
| 情報科学コース | 13 | 71 | 17 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 13 | 81 | 6 | 0 |
| 物質変換科学コース | 14 | 69 | 11 | 6 |
| 生体機能物質工学コース | 31 | 52 | 14 | 3 |
| 生物科学コース | 35 | 60 | 5 | 0 |
| 地球史環境科学コース | 17 | 70 | 13 | 0 |
| 防災科学コース | 16 | 78 | 6 | 0 |

30. C あるいは D を選択した人にお聞きします。どんな授業を増やせば(減らせば)よいと思いますか。具体的に書いてください。

数理科学コース

- ・ 今のままでいいと思います。ありがとうございました。
- ・ 演習を増やしてほしい。
- ・ プレゼンテーション能力の強化
- ・ その学科の主な就職先(職業)または進学に役に立つ内容
- ・ FPの資格などの授業があればいいかなと思いました。(専門の授業でかぶって取れなかったので)
- ・ パソコンの技術を身につけたり、人との関わりなどをもっと学べたら良いと思います。

情報科学コース

- ・ マナーに関する授業があったら面白いと思う。
- ・ 資格取得のための授業などがもっと欲しかった。
- ・ 社会人との交流の機会を増やしてほしい。
- ・ 資格を取得できるようなカリキュラム

- ・ 資格取得

物質基礎科学コース

- ・ 日本語技法などはいいい授業だったので、あのような言葉遣いや礼儀などについて学習する授業
- ・ 企業等でどのように扱われているのかや、どのように製品等に活かされているのか等、理論が実際に使われている場面をもっと教えて欲しい。
- ・ 相対論や素粒子・原子核理論についての講義が増えてほしい。

物質変換科学コース

- ・ 資格試験の可否で単位認定をする等。
- ・ グループワーク、課題探索型授業、資格取得に合わせた授業(筆記、シスアド、危険物取り扱いなど)
- ・ 専門科目をもっと多くしてほしい。院を受ける時に、量子論や高分子材料の知識を得る機会が少なく、周りの大学の人達にたちうちできなかった。
- ・ 実験の細かいスキルや、コミュニケーション能力など。
- ・ 日常に起こる現象で、そのバックグラウンドとなるような内容。
- ・ プレゼン
- ・ 就職支援など
- ・ コミュニケーション力、行動力、洞察力

生体機能物質工学コース

- ・ 医学部系の授業がもっと用意してほしい。
- ・ 礼儀作法(正しい言葉遣いや、会食マナーについてなど)、3年生が履修できる就職活動についての基礎から応用までみたいなのです。
- ・ とにかく実験が少ないです。実験できないのであれば、実験の種類についての講義等を増やして頂きたいです。また、もっと早く卒業研究も始めたいです。
- ・ 1、2回生のときに就活の授業が必修でほしい。
- ・ 社会人の人と一緒に何か一つの問題について解決策を考える授業があると伺いました。一年の時にしか受講できないと伺ったのですが、やってみたくかったです。
- ・ 実習
- ・ プレゼンテーション能力を上げるような授業がもっとあれば良いと思います。例えばたくさんの人の前でプレゼンする機会を増やすなど。
- ・ コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、日本語技法(敬語など)、パソコンのスキルに関すること。

生物科学コース

- ・ 就職に有利なこと。
- ・ マナー(秘書検定のような内容の授業)
- ・ 情報や経済、経営に関する授業。確かにあることはあるが、後者は人文寄りの内容なので、理学部の科目と重なって取れない。
- ・ 自分の研究内容(研究室ごとの)に沿ったものが少ない。他研究室の授業を取らないと単位が足りないというのは問題があると思う。

地球史環境科学コース

- ・ プレゼン等を重点的にして、ケーススタディのような授業で必要な自学能力、理論考察、プレゼン能力。
- ・ 「ケーススタディ」で特定のものを受けないと、卒論研究が出来ない(ゼミ、研究室に所属できない)という先生がいっぱいいるようなので、複数回あるいはそれに準ずる授業を開いた方が良いでしょう。
- ・ 社会に出た時に、その専門分野に携わった場合を考え、その場で即戦力となりうる可能性が高くなるような、という意味での役立つ授業です。

- ・ 発表や共同作業
- ・ 学外の講師の授業をもう少し受けたかったです。

防災科学コース

- ・ より実践を考えた教科内容
- ・ インターンの斡旋
- ・ 専門系
- ・ インターンシップの単位を増やす。
- ・ コミュニケーションをつける授業
- ・ フィールドワーク
- ・ もっと研究所や企業の人と会ったり、研究内容の講義を増やして、社会のことを知り、社会への意識を高めること。

【アドバイザー教員制度】

31. アドバイザー教員の指導・支援は適切でしたか。
- A. 適切であった B. 概ね適切であった
C. 余り適切でなかった D. 適切でなかった

(%)

| | A | B | C | D |
|-------------|----|----|----|----|
| 数理科学コース | 71 | 26 | 2 | 0 |
| 情報科学コース | 54 | 38 | 8 | 0 |
| 物質基礎科学コース | 44 | 44 | 13 | 0 |
| 物質変換科学コース | 43 | 46 | 11 | 0 |
| 生体機能物質工学コース | 69 | 28 | 3 | 0 |
| 生物科学コース | 55 | 25 | 10 | 10 |
| 地球史環境科学コース | 65 | 30 | 4 | 0 |
| 防災科学コース | 56 | 38 | 3 | 3 |

32. 理学部の教育や高知大学の教育全般について、意見があれば書いてください。

情報科学コース

- ・ アドバイザー教員制度は3年から良いと思う。1、2年の時にコースの違う先生がアドバイザー教員であつたら、何も相談しないのでは？掲示板をじっくり見て、行動すれば良い。個人情報の管理は学務課か所属学部がすれば良い。アドバイザー教員自体大学を知らない人がある。友人にきけば済む話である。先生に質問がある人は、きちんと自分で先生をさがす人である。3年以降であれば自分で選ぶ先生ゆえ、就活やゼミに関してなど、質問は満足するものとなるので将来ままで充分である。
- ・ 入学後に自分の希望と異なるコースへの振り分けをするのはおかしいと思います。
- ・ 希望しないコースに所属された場合、自分がやりたい仕事と関係のない分野を勉強しても、授業に対する意欲もあまり出ず、内容が理解できないため、意味がないと思うから。
- ・ 卒論などの忙しい時期になると、先生もお忙しくなるので、指導がなかなかしてもらえなかった。先生の雑務を減らして頂けると嬉しいです。
- ・ 私たちの代までは、情報か数理か選択しても必ずしも希望のコースに行くことができませんでしたが、下の代から自分が希望するコースに行くことができるようになったので、納得がいきませんでした。私は数学の免許が欲しかったので大学に来たのに自分がやりたかった数学ではなく、成績と希望者の数の関係で情報科に回さ

れてしまいました。自分が学びたいことができる場所が大学だと思っていたので残念でした。

物質変換科学コース

- ・ ジェネラルコースの設置の意図が良くわからない。また、研究室配属のときに生じるいわゆる「不本意分属」は学ぶ意欲をそいでしまうと思う。難しいとは思いますが、何とかした方が良いと思う。

生物科学コース

- ・ 現在、三年後期に研究室配属が決まるが、もっと早期に決定することで、自分の専門性の方向付けをしてほしい。

地球史環境科学コース

- ・ 教授1人あたり専門5科目くらいずつあったほうが、研究室に配属になった時に予備知識をもてますし、全く関係ない授業を取るよりはためになると思う。

防災科学コース

- ・ 理学部内の講義において、他学科の講義もより多く履修できるようにしてもらいたかった。私の年代におけるカリキュラムでは、6単位までと3つしか他学科の単位の履修が認められていなかった。私の場合、自分がやりたいこと(気象分野)のために道具として必要な知識(例えばネットワーク関連、プログラミングなど)を得るために独学だけでなく、講義からヒントを得たいと考えていた。独学では、自分でペースを作って学べるため、学ぶ進度を調節できるが、どういったところがポイント等はすぐに分からない。その点において、講義では、要点を自分で見つけやすく、独学につなげれば、さらに理解が進むと考えました。もちろん、わからないことは自分で調べたりすることが学生としてあるべき姿とは考えますが、より知識を広くするためには必要なのではないかと考えます。
- ・ 学生や教員との距離をもっと身近なものにし、1つの授業の関係だけでなく、他の勉強や生活においても協力し合い、高めていけるようなものにしていければ良いと思います。
- ・ まず、高知県は地震の恐れがあるので、それに対する授業をもっとみんなが取るべきだと思う。